



発行年月日 2020年12月18日

発行者 日本作業科学研究会広報

ウェブサイト <http://www.jssso.jp/>

本ニュースは、本研究会の活動をまとめ、年2回約半年ごとの記録としてHPに掲載するものです。会員に向けて、研修会や報告などのニュースがあったときは最速で個人登録したメールアドレスに配信しています。今年度から、会員向けオンラインセミナーを継続的に開催する予定です。ホームページやフェイスブックをチェックしてください（ニュース担当理事） \*\*\*

### ○2019年11月 第23回作業科学セミナー感想 東大阪病院 安田友紀

2019年11月23～24日に茨城県立医療大学で行われた第23回作業科学セミナーに参加しました。

今回、私は1日目に行われたプレセミナー『Welcome to 読みたくなる「作業科学」文献の世界』において、私自身の作業科学文献との出会い等についてお話しさせて頂く機会を得ました。グループワークも含めた本企画は、作業科学を学ぶ（学ぼうとする）方が「資料はあるけど山積みになっている」「読み進めようとしてもページが進まない」といった現状を打破すべく、作業科学文献に親しむために企画されました。作業科学文献を読むという作業に関して義務・願望の視点で捉え、自分たちのその作業を理解し、個別ワークで立てたアクションプランを参加者同士で共有しました。参加者からは「グループワークでコミュニケーションが取れてよかった」「セミナーの参加動機を含めて問い直すきっかけとなった」等、沢山の意見を頂きました。『作業科学（文献）は難しい』というイメージを少しでも払拭し、自分たちが考える作業について沢山のひと話し合えるきっかけとなれば嬉しいです。

セミナーでは、『変容する作業と未来』のテーマのもと、先端テクノロジーと私たちの生活・作業との関係、今後の展望、テクノロジーが発展する中で変容するもの/しないものは何か等について考えることの出来た2日間でした。昨今、テクノロジーの急速な発展に伴い私たちの生活もどんどん便利になってきており、今後、そのような文化の中で私たちの生活も変容していくと思われまます。しかしそれと同時に、その発展により馴染みのないものを生活に取り入れることの大変さを経験する人たちが出てくることも考えられます。作業科学を学ぶ作業療法士



として、先端テクノロジーの発展に伴い生じる生活への影響を様々な視点から考えること、作業的存在としてのクライアントの理解をより丁寧に行うことで、便利さだけを追求した生活を支援するのではなく、その人らしい生活とは何かという根本を忘れず、上手く先端テクノロジーと向き合っていく必要性を感じました。今回、私にとって初めての茨城県でしたがランチ

懇親会では茨城県の特産物を沢山頂くことが出来ました。美味しい料理を作って下さった地域の方々と触れ合い、全国の作業療法士の方々と沢山の意見交換が出来たととても有意義な時間でした。沢山の学びと経験を得た2日間、講師の先生方、大会を運営されたスタッフの皆様、参加者の皆様に深く感謝致します

## ○学術団体としての発展を祈って

作業科学研究会前会長 吉川ひろみ

2020年2月28日事務局の坂上真理さんから、日本学術会議の協力学術研究団体として認定されたという知らせが届きました。会員の半数以上が大学などの研究機関所属の研究者でなければならないという基準をクリアするための活動の成果を得ることができました。皆さんのご協力に感謝します。

2014年度から会長となった私は、会長の任期3期を満了します。この6年を振り返ってみると、学術研究団体として認定されたことは大きな前進です。これにより、修士や博士の学位論文として書かれた作業科学論文が、当会の機関誌「作業科学研究」に掲載される機会が増えることを期待しています。

「研究すること、学問をすることの何がよいのか」という問いに、「鯛を食べたことのない者に鯛の味は教えられない」と言った老教授の言葉を思い出します。私が最初にこの言葉を聞いたとき、上から視線の偉そうな言葉に聞こえました。しかし、折に触れてこの言葉を思い出し、同意するようになりました。学問は苦しい、嫌な思いもする、意見の対立場面で不快になる、それでもオープンで率直なディスカッションの中で気づきがあり、思慮深い発言に感銘を受け、世界の見え方が変わります。これは、

まさに「作業はやってみないとわからない」ということなのだと思います。

「教えるー教えられる」の関係性を超えて、対話による発見の場へとこの研究会の活動が広がることを念じて会長を務めてきました。私が書いたニュースの巻頭言を読み返して、この思いを再確認しました。作業を研究する会（2015年3月）で書いている、作業療法士以外の研究者の入会は、今回の学術団体申請過程で少し実現しました。作業と作業遂行と作業との結び付き（2016年2月）では、学び続けることの重要性を強調しました。作業の意味（2018年3月）では、自身の作業を見つめるための道具として、自著「『作業』って何だろう」の改訂版を紹介しました。学術団体として認めてもらうための活動（2019年7月）で、協力をお願いした結果、会員数197名中、研究者数130名（研究者比率66%）という予想以上の会員構成となりました。会員の中には、本研究会が「学術」「研究」を前面に出しすぎていて敷居が高いと感じる人もいるかもしれません。私は、みんなで敷居を超えていきたいと思います。そして、さらに高い敷居を作っていきたいです。平均値や標準範囲に収まるような行動ではなく、未知の、さらに高く、さらに深い、学術的世界の扉を開きたいと考えています。作業科学の知識を知り、考え、対話すること、作業科学の世界で遊びましょう。

## ○日本作業科学研究会 広報・ネットワーク活動の紹介

広報・ネットワーク活動担当：西方浩一

日本作業科学研究会では、研究会ホームページ、Facebook、メーリングリスト等を通じて、情報の発信、交換を行っています。

研究会ホームページでは、主に講習・研修会にて、毎年実施しているセミナーや研修会の案内を掲載しています。機関紙・書籍情報では、書籍、論文情報に加え、国際交流班が翻訳した論文が掲載されています。機関紙閲覧では、これまでに発刊された作業科学研究が掲載されています。なお、第11巻以降はJ-Stageにて掲載されており、そちらへのリンクも掲載されています。これらはいずれもフリーで閲覧することが可能です。研究会事務局ページ、入会申込・登録変更ページでは、会員の皆様の手続きに必要な情報が掲載されています。

勉強会情報では、全国各地で作業に関する勉強会の開催場所、代表者、連絡先等を掲載しています。皆さんの居住する地域でも実施している勉強会情報がありましたら、ご一報いただきたいと思います。会員専用ページでは、Journal of Occupational Scienceのアブストラクト翻訳や書評、メーリングリストの参加方法などが掲載されています。

日本作業科学研究会 会員皆様

連休をいかにお過ごしでしょうか。理事で、国際交流班担当に小田原悦子さんより、ポスターが届いたとの連絡です。

世界作業科学カンファレンスの日程：2022年8月24-27日

開催地：バンクーバーのブルティッシュコロンビア大学です。

Facebookでは、ホームページに掲載された内容を随時、投稿しFacebookに友達申請していただいている皆様にアナウンスをしています。また研究会理事が作業科学に関する情報を得た際にも投稿しています。Facebookアカウントをお持ちの方は是非登録をお願いします。またニュース「作ら、さくら」は、逐次会員へのニュース配信と、総括したものを年に2回発行し、ホームページ内から閲覧可能になっております。セミナーや研修会参加者の感想、セミナーの告知、理事会議事録等を掲載しています。

メーリングリストは、現在、研修会情報などの発信に主に使用しています。会員の皆様も知り得た情報等、共有にご活用いただきたいと思っています。

このように研究会が実施している活動は、様々な情報発信の方法を使用し、会員の皆様のお手元に届くよう工夫しています。会員の皆様には、これらの作業科学に関する情報を活用いただき、日々の研究・実践に役立てていただきたいと思います。さらには情報交換の場になるよう皆様からの情報提供もご協力頂けると嬉しく思います。

以上



1<sup>st</sup> World Occupational Science Conference  
**DATE CHANGE**  
To August 25-27, 2022

Communication from:  
the University of British Columbia Department of Occupational Science and Occupational Therapy &  
the International Society for Occupational Science

As we look ahead to welcoming the occupational science world to Vancouver, Canada, the extraordinary circumstances of the 2020 global pandemic have caused us to give important considerations to the possibility, safety, and comfort of world travel. After we, as WOSC co-sponsors, raised concerns amongst ourselves about hosting a conference in 2021, we consulted widely with our 9-member international advisory council, and numerous other occupational scientists around the world. The unanimous opinion was that 2021 is too soon to host a successful international conference due to uncertainty related to travel restrictions, quarantine requirements, health insurance, and individual comfort.

We want to ensure that our international colleagues are able to and feel comfortable travelling to Vancouver. We also want to give researchers whose projects have been put on hold due to COVID-19, more time to complete studies that they want to share with an international audience. As such we have shifted our conference dates, and look forward with excitement to hosting the 1<sup>st</sup> World International Science Conference in Vancouver, at the Sheraton Wall Centre on

August 25-27, 2022  
(with August 24 reserved for pre-conference activities)

Our conference theme, *Occupational and Society: Global to Local Perspectives for the Future*, will remain the same. We welcome the many new perspectives the current and evolving world circumstances will bring to this theme.

Stay tuned! Updates will appear on our conference website <https://wosc.osot.ubc.ca/>.  
Look for more information on abstract submissions, registration, accommodation, and more beginning in the spring of 2021. Anyone with questions, requiring more information, or wishing to volunteer with the conference my contact us at [WOSC.2022@ubc.ca](mailto:WOSC.2022@ubc.ca).

Sincerely,

Susan Forwell, UBC Dept. Head & WOSC Chair	Suzanne Huot, UBC WOSC Vice-Chair, IOSS Liaison
Julia Henderson, UBC WOSC Executive Director	Nadine Blankvoort, Amsterdam Univ. of Applied Sciences IOSS President

## ○日本作業科学研究会第24回学術大会の開催について

日本作業科学研究会第24回学術大会  
大会長 山根 伸吾

新型コロナウイルスで亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被患された皆様に心よりお見舞い申し上げます。かねてより準備を進めておりました日本作業科学研究会第24回学術大会につきまして、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、5月23日の理事会での協議の結果、開催の延期が決定しております。本学術大会へ参加を予定されていた皆様、演題発表、自主企画への参加をご検討頂いていた方、また講演をお願いしている皆様におかれましては、大変なご迷惑をおかけすることを深くお詫び申し上げます。

開催については、2021年度の秋を目途に予定しております。会場：県立広島大学（三原

キャンパス）、テーマ「日々の暮らしを彩る作業」は変更ございません。開催延期に伴い、皆様にはスケジュールの再調整などご迷惑をおかけすることになりますが、何卒ご理解をいただければ幸いです。

先行きが不透明な状況ですが、今回の社会的な変化により、私たちの作業は、形態を変えたり、取捨選択を余儀なくされたり、あるいは創生されたり、再開されたりといった、多様な、そして今までにない経験をされたのではないのでしょうか。私自身も作業的存在としての自分と作業との結びつきを改めて考えることが多かったように思います。次回の学術大会には、そのような皆様の経験をぜひ持ってきてください。そして、その経験を参照しながら「日々の暮らしを彩る作業」について、意見交換ができればと思っています。よりよい学術大会になるよう準備を行ってまいりますので、ご理解、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

## ○議事録等(2020年6月～12月開催分)

<2019年度第4回日本作業科学研究会理事会  
会議録>

2020年6月27日（土）19：00～21：00

場所：オンライン

出席予定者：吉川，西方，小田原，ボンジェ，  
山根，中塚，港，若井

欠席予定者：坂上，丹羽

### 【報告・審議事項】

I. オンライン研修について(港、中塚、西方、吉川)

- ・目的の一つは、魅力的な内容で会員を増やすこと、OSの学術見識に触れる機会を作る
- ・方法 ディスカッション中心。例Q&A。実行して修正していく。

・オンライン研修特設委員会が担当。委員：吉川(担当理事)、港、中塚、西方

・月2回ペースで実施する。参加費無料。

・事前予告動画は、公開。

・研修担当者が予告動画を作成し、研修参加の受付も行う。受付と資料もする。

・7/10吉川（タウンゼントを元に），7/24西方（札幌セミナーザムケ先生のお話をもとに）

II. その他

1. 執行部，事務局

1) 執行部：吉川

2) 事務局：坂上

①選挙と総会の今後の予定

・選挙：選挙予定、選挙管理委員会と連携し進める。

・総会：学術集会を中止としたので、8・9月を目指して総会を計画する。

## 2. 学術委員会

- 1) 啓発・国際情報班：小田原 新着情報なし
- 2) 研究推進班：中塚, 小田原

・研究推進班のオンライン研修

ライブで行うか、ビデオで行うかなど検討。

・研究推進班として新規会員に何ができるか現時点で還元できるものはあると考える。HPを丁寧に案内してはどうか。

A4 1枚でアクセスできる情報を全会員に配布するなど検討中。

・今後のOS研究会としてオンラインでの活動での方向性

登録、課金など調査し、総会に向け提案をしていく。研究班と実践班で担当。

A4 1枚でアクセスできる情報を全会員にメール配布するなど検討中。

- 3) 実践につなげる班：西方, 港

・zoom利用しての研修会検討。内容検討、課金検討。

- 4) 機関誌編集班：ボンジェ, 山根, (委員：西野)

・予算の使用は、発行年と巻は継続して合わせていく。原著論文の準備でき次第アップしていく。

## 3. 広報・ネットワーク委員会

- 1) ホームページ：西方, 山根

・業務分担しながら活動する。

- 2) メーリングリスト：西方

・新着情報なし

- 3) 研究会ニュース：西野

・年始挨拶、リソース活用、理事会報告を近日アップする。

- 4) セミナー関連サポート：なし

5) 第24回学術大会 (OSセミナー) について：山根

・2021年秋予定

## 4. その他

- 1) 会員意向調査をしてはどうか (中塚)

- 2) 次回、理事会の開催 8月開催で調整する

以上

<2020年度第1回日本作業科学研究会理事会会議事録>

2020年8月11日 (火) 19:00~21:00

場所：オンライン

出席：吉川, 西方, 小田原, ボンジェ, 山根, 港, 若井 坂上

欠席：丹羽, 中塚

### 【報告・審議事項】

#### 1. 執行部, 事務局

- 1) 執行部：吉川

・特になし

- 2) 事務局：坂上

#### ①選挙結果

・理事に9名立候補。監事2名。全員が当選した。

#### ②オンライン総会議案書の確認と進め方

・「みなし総会」で開催。

①8月24日に事務局一斉メールで議案書と会長挨拶を送信

②8月24日~8月30日 質問と異議を受付。異議を申し出なかった会員は承認したとみなす。

③会員数 (会費納入者) 142名 (2020年8月11日現在)

## 2. 学術委員会

- 1) 啓発・国際情報班：小田原

・JOS抄録の翻訳を継続している。

・今後も作業科学研究に書評を載せてもらう。

- 2) 研究推進班：中塚, 小田原

・2021年開催予定で準備。

- 3) 実践につなげる班：西方, 港

・2020年秋から来年にかけてオンラインで短縮した内容で開催予定。

4) 機関誌編集班：ボンジェ、山根、（委員：西野）

・9月～10月に原著論文2編，セミナー論文がPDF化される。

・作業的存在の発刊時期は，次の編集委員会で確認し，担当者に知らせることを確認。

3. 広報・ネットワーク委員会

1) ホームページ：西方，山根

・継続的にHPアップしている。

2) メーリングリスト：西方

・継続して利用している。

3) 研究会ニュース：西野

・理事会が終わった後，議事録と学術大会の告知を行う。

4) セミナー関連サポート：なし

5) 第24回学術大会（OSセミナー）について：山根

・テーマ：日々の暮らしを彩る作業

・大会長：山根伸吾

・場所：県立広島大学三原キャンパス

4. 特設委員会

1) オンライン研修特設委員会

・研修会報告：7月から月2回のペースで実施。現在3回を終え，今後も月2回のペースで実施予定。

5. その他

1) 次回理事会開催

・総会后，新旧理事会を開催する。

<2020年度第3回日本作業科学研究会理事会会議事録>

2020年12月15日（火）20:00～

場所：オンライン

出席：近藤、中塚、山根、ボンジェ、高木、今井、西野、齋藤、坂上

欠席：若井

## 【報告確認事項】

1. 三役会：

9月25日、10月9日、11月17日に3回実施

・HPへの3役/理事の紹介文掲

・今後の研究会運営に関する検討

・日本学術会議協力学術研究団体実態調査回答

・役員・委員の委嘱状の発行

2. 研究推進班

・オンライン研修会の開催

1) 「質的研究について」

2021年2月21日（土）10-12時

2) 「作業科学研究論文の読み方」

2021年4月24日（土）10-12時

3. 実践につなげる班

・オンライン研修会開催

1) プロジェクト①

→2021年3月までに3回計画（1/29、

3/5、3/26、すべて20:30-22:00）

プロジェクト②

テーマ「作業と健康の関係を人に説明できるようにしよう」2021年5月以降に2または3カ月に1回開催予定。

4. 機関誌編集班

1) 機関誌「作業科学研究」第15巻企画 学部教育に関するテーマ（検討中）

2) 投稿規定・執筆要綱の見直し（重複部分の整理など）

3) 論文投稿の促進・査読基準を計画・可視化

4) Google driveの導入・メールアドレスの整理

5) 論文掲載料に関する検討

5. オンライン特設委員会

1) 月に1回、OSカフェを開催及び予定、12/23(水)、1/21(木)、2/25(木)、3/18(木)

・OSカフェを作業科学にまつわるトピックスについての意見交換の場（ディスカッションがメイン）として位置付け、30代以上の参加者が多く定着。話題提供希望者、または話題提供

の提案を受けつけ。参加者にも随時呼びかけ。

#### 6. 第24回学術大会

- ・WEB開催の予定で準備中。テーマや講師は予定通り。
- ・10月23, 24日を第一候補、10月30, 31日を第二候補で講師に打診中。
- ・講演は基本的にはオンデマンドにして、その後にディスカッションの時間を設ける。
- ・ワークショップはオンタイムで実施。一般演題はパワポのオンデマンドにして、ディスカッションの時間を設ける。ZOOMを複数契約予定。

#### 7. その他

上記以外の班は例年通りの内容で運営

##### 【審議事項】

\*理事会の開催時間：各自希望がある場合は役員メールで連絡する。

#### 1. 次次回学術集会開催地について：

⇒東北に打診することを確認。

#### 2. 年度初めの決定（2022年度以降）と次回の総会開催日（2021年7月）について

⇒年度初め：現在の7月1日～6月30日のままとすることで承認。7月年度はじめは会員にわかりづらいので、年度替わりに会員に周知することを確認。

⇒総会はオンラインで行うことで決定。年度はじまりから2か月後ぐらいに行う。総会は9月上旬に行うことで確認。

#### 3. 年度事業と新規会員の獲得について

⇒会費納入者193名（2020年12月15日現在）

⇒現在提出されている実践につなげる班と研究推進班の研修会事業案を進めることを確認。

#### 4. 研究会オンラインストレージについて

⇒機関誌ではオンラインストレージはGoogle driveにすることにした。今後、必要性を検討していくことを確認。

#### 5. 事務局業務委託と事務局理事2名体制について

⇒今後、必要性や有効な方法、費用対効果を検討していくことを確認。会則の中の役員、事務局員について、三役会で整理し見直す。

#### 6. オンライン研修会の費用徴収と参加費及び講師料のあり方について（研修を行う全ての班）

1) 研究推進班案（今年度の研修会用として）  
会員2000円、非会員3000円

講師謝金1万円、

準備担当者日当6000円、司会3000円

参加費徴収方法はPeatixで検討中

⇒研修会の運営は赤字を出さないようにすることで確認。黒字だった場合の講師料は、三役会でたたき台を作成し、理事会とのメール会議にすることを確認。決まるまでは、各班の判断で行っていくことを確認。

⇒Peatixを試す。その他、研究会では郵ちょ銀行で振替口座も作成する。

#### 7. メーリングリストからのお知らせ等の担当者の確認について（ニュース班）

⇒次回実施する。

#### 8. 研究会ニュースの位置づけと掲載内容について（ニュース班）

#### 9. その他

次回検討事項：退会届けの無い場合での会員登録の抹消に関して